

---

# マーブルチョコレートと。

音無 無音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

マーブルチョコレートと。

### 【Nコード】

N1406V

### 【作者名】

音無 無音

### 【あらすじ】

高校に上がった俺たち。    ほぼ大体が同じ学校に通えた。    . . .  
・そう、幼馴染のあいつもそうだ。    昔っからマーブルチョコが大  
好きだった、あいつ。

「はあ？お前幼馴染だア〜とかほざいてたくせにしらねえの？」

「あー、悪いね、知りませんよ」

掃除中、知り合いになったばかりの奴と喋る俺。

話題は幼馴染のソラの話だった。

高校に入り、中学よりも校則がゆるくなってから大好きなマール  
チョコを

休み時間中頬張るあいつだ。

「だってさー、あんなお菓子似合う女子居ねえぜ？かわいいし」

語尾の“かわいい”がむかつく。

ぜんっぜんかーいくねえしい！

「んでえ、この前チョコあげたらあ

『え？くれるの？えへへー、ありがとっ！』

だとおおお？んふふ」

なんだよ、それえ、糞デレデレじゃねえか、てめえ。

少し苛立ちを覚えた。

・・・・・・・・別になんかそういう感情があるっつーわけじゃ・・・・・・・・

「つーか、話題ずれてるし！」

と叫んだところで

「ゴルアア男子イイ」

先生に怒られた。

「罰として、雑巾がけだア！」

「はあああ？」

帰り道、またまたソラの話題。

「んでな、俺見たんだあ」

「ほう？」

「ソラちゃんが告白されてるのを！！」

どうせ一回だろ。

「・・・ふふふ。しかも、聞いて驚くな？・・・三回だ」

「なっ！？」

「驚くなっていっただろ」

三回！？ あいつそんなモテたっけ！？

やべえ、最近喋らねえし顔も合わせねえからなあ・・・。

「あつ」

そんなことを考えている時、聞き覚えのある声がする。

案の定ソラだった。

「ソラちゃーん」

「こんにちは！この前チョコありがとー」

愛想いいな・・・。

「ねえ、正弘まさひろっ！今お金ないんだけど・・・チョコ買つて？」

「ああ、はい」

俺は言われるがままについて行つた。

ソラの要望で友人は呆気なく断られた。

「・・・金ねえんじゃなかったのかよ」

「ないわけないじゃーん？・・・正弘を引き離す口実だもん」

文末が聞こえなかった。　ボソボソ言うな、おい。

「なんつったあ？」

「なんでもなーい！正弘のばああか」

買い終えさつさとコンビ二を出てしまふ彼女。

そーいや、今日はチョコパイの新作発売日か・・・。

チラッと見てみるとカップルがいたので菓子コーナーに行くのを

断念。

仲良く指なんて指しちゃって、もう。

・・・・・・・・・・。 ソラはどこだ？

「んあー、おそーい」

ベンチでくつろいでたよ・・・・・・・・。

「ほら。立て。なんなら涼しい場所行こうぜ」

「ふいー、じゃあ正弘の家！」

「ああ、はいはい」

こいつにやかなわん。

俺の家についたのはいいものの、肝心の奴はずっと食ってやがる。

「・・・・・・・・・・？なあに？欲しいの？」

「・・・・・・・・・・べつつにい」

「ふうん」

ひよいひよいと掴んでは口に運ぶ。

お前の腹はブラックホールでも装備してんのかあ？

・・・・・・・・・・あれ。

そ、そういえばこいつも含め女子を部屋に上げたこと・・・・・・・・。

ない。

いきなり緊張してきた。やばい！同じ空気すってらんねえ・・・・・・・・

・ツ

「ねえ」

「・・・・・・・・・・ッ はい！？」

「好きな人、いるの？」

「・・・・・・・・・・っは？」

いけねえ、思わず素っ頓狂な声を…………。

「なんでもない」

「お、お前はどうかんだよ？ いろんな人にコクられてんだろ？」

「……………いるよ」

んままままマジでかああ？！

「そ、その人は　鈍感で、私のことなんて気に留めてなくて。

……………でも、少しだけ優しいときがあつて」

ふうん、いい人だな、結構。

「……………振り向いて、くれたらなあ、なあんて」

「お前のことだし、大丈夫だろ」

「……………」

急に冷たい瞳になる。　俺悪いこと言つた？

「……………ッ　ば、ばかあ」

！？　泣くなよ！？　え？！

「だから、もう！ あんたは

“鈍感だし、私なんて無視だし”」

「！」

「……………つぐ、えぐ」

え、まさか、え？　お前の好きな奴つて…………。

「俺？」

なのかあ！？　ど、どーしよ…………。

急に顔が火が出るように熱く、赤くなる。

「えっと、俺、その」

「もういい！ 私あんたなんか大好きだから！！！！」

「……………ッ」

そういつてソラは俺の家を飛び出していった。

「……………つくあゝゝゝ！ 反則だろ……………」

そう言いつつ床に目を落とす。

．．．．．ってこれ、あいつのスクバじゃね？

俺はそれを掴み次第彼女のもとへ走った。

俺の気持ちも伝えるに。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1406v/>

---

マーブルチョコレートと。

2011年10月3日11時15分発行